

2020年6月19日

各 位

株式会社淀川製鋼所
IR室PRグループ

ヨドコウ迎賓館を構成文化財とする日本遺産が認定

当社は兵庫県芦屋市にフランク・ロイド・ライト設計の国指定重要文化財「ヨドコウ迎賓館」（旧山邑家住宅）を所有しており、社会貢献活動の一環として、この文化財の保存と活用に取り組んでおります。

2020(令和2)年6月19日(金)、伊丹市、尼崎市、西宮市、芦屋市、神戸市の5市が申請を行った『「伊丹諸白」と「灘の生一本」下り酒が生んだ銘醸地、伊丹と灘五郷』が2020(令和2)年度の日本遺産に認定されました。

当館は、灘五郷の背後、六甲山の山肌に沿うように建ち、「櫻正宗」の銘柄で知られる灘の酒造家、八代目・山邑太左衛門の別邸として、1924(大正13)年に竣工しました。この地域を愛した酒造家の進取の気風を伝える代表的な近代建築として、このたび認定された日本遺産のストーリーを構成する文化財の52件に、そして芦屋市に所在する3件に含まれております。

1.日本遺産とは

文化庁が地域の歴史的魅力や特色を通じて我が国の文化・伝統を語るストーリーを「日本遺産」として認定し、ストーリーを語る上で不可欠な魅力ある有形・無形の様々な文化財群を総合的に活用する取り組みを支援するものです。

文化庁では2015(平成27)年度から「日本遺産」の認定を行っており、新規認定については、今回の2020(令和2)年度認定分をもって最後となる予定です。「日本遺産」は今回の認定分21件を含めて、2020(令和2)年6月19日現在で104件です。(2015年度18件、2016年度19件、2017年度17件、2018年度13件、2019年度16件、2020年度21件)

2.今回の日本遺産の認定ストーリーの概要

江戸時代、伊丹・西宮・灘の酒造家たちは、優れた技術、良質な米と水、酒輸送専用の樽廻船によって、「下り酒」と称賛された上質の酒を江戸へ届け、清酒のスタンダードを築きました。六甲山の風土と人に恵まれたこの地域に生き発展を願った酒造家たちは、江戸積み酒造がもたらした富を、芸術・文化・教育や建築に注ぎ、その思いは今日「阪神間モダニズム」と称される近代文化勃興の核となり、阪神間の都市の骨格を形成しました。

※本件に関するお問い合わせは、下記までお願い申し上げます。

株式会社淀川製鋼所 IR室PRグループ 担当 阪本・越野

TEL 06-6245-9103 FAX 06-6282-9176 e-mail info@yodoko.co.jp

以上



(外観 全景)



(外観 1階エントランス)